


学年	5年	教科	総合	単元名	自分達の成長を伝えよう レインボー放送局②
学校名	村山市立楯岡小学校			実践者	齋藤 友貴
本時の学習活動	1年間の思い出をラジオ番組にして発表する。				
ICT活用のねらい	【1 教員による活用】		【2 児童生徒による活用】		
1-1 2-3	1-1 興味関心を高める 1-2 課題を明確につかませる 1-3 思考や理解を深める 1-4 知識の定着を図る	2-1 情報を収集・選択する 2-2 文や図表にまとめる 2-3 発表したり表現したりする 2-4 知識や技能の習熟を図る			
活用する機器・ソフト・コンテンツ等	タブレット端末 (iPad), ラジカセ, PC, アプリ (ALON, Dictaphone)				
学習形態	<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習	<input checked="" type="checkbox"/> グループ学習	<input type="checkbox"/> 個別学習		
活用の場面・方法	<input type="checkbox"/> 導入の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 展開の場面	<input checked="" type="checkbox"/> まとめの場面		
	① 1年間の思い出を3分程度のシナリオでまとめる。 ② タブレット端末で録音。 ③ 他のグループの発表を聞き合って、改善点を見つけ、本番の番組を録音する。				
活用のポイント	・場の設定 (スタジオ作り・役割分担・BGM) を児童に考えさせ臨場感を持たせる。 ・番組構成を考えさせようとして、録音の仕方に工夫を持たせる。				
児童生徒の学びの様子	・どんな役割が必要か (DJ・タイムキーパー・ディレクターなど) を話し合い、BGMを流すタイミングや、実際のラジオ番組はどんな番組構成をしているのか調べるなど、意欲的に活動する姿が見られた。 ・声だけで伝えたいことを伝えるにはどうすればよいかを考え、間の取り方や声の強弱、伝える順序などを自分たちで工夫する様子が見られるようになった。				
活用の様子 (写真)					
実践を通して感じたこと	・アプリの活用次第で、児童が自分達だけでラジオ番組を作ることができる。操作が容易なタブレット端末は非常に利便性のあるものであった。 ・情報通信機器を組み合わせることで、臨場感のあるラジオ放送を行うことができる。				